

令和7年12月4日

令和7年度 第2回 大阪市立聖賢小学校 学校協議会 実施報告書

校 園 名 大阪市立聖賢小学校

校 園 長 名 林田 泰治

日 時		令和7年12月4日	
場 所		聖賢小学校 多目的室①	
検 討 者	委員 など	伊藤 春男（会長） 北出 浩一（委員） 佐野 正博（委員） 松田 恭子（委員） 芳松 裕子（委員） 飯田 亮真（委員） 6名	
	校 園	林田 泰治（校長） 竹内 由紀子（教頭） 盛田 滋久（教諭）	
	区役所	山田氏	
議 題		（1）全国学力・学習状況調査の結果について （2）「令和7年度 運営に関する計画」目標別シート1【安全・安心な教育の推進】について （3）「令和7年度 運営に関する計画」目標別シート2【未来を切り拓くための学力・体力の向上】について （4）「令和7年度 運営に関する計画」目標別シート3【学びを支える教育環境の充実】について	
協 議 要 旨		協議の結果	意見の概要
		「全国学力・学習状況調査」の結果及び「運営に関する計画」中間評価に関して、概ね理解を得た。 （1） <ul style="list-style-type: none"> 国語と理科の結果が、大阪市平均・全国平均を下回る結果となっている。 質問紙の「学校に行くのは楽しいと思いますか」で、「楽しくない」と答えた児童が全国平均よりも12.9ポイントも上回っている。 （2） <ul style="list-style-type: none"> 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の回答については、児童アンケートの結果では達成できている （3） <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートでは、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に最も肯定的に回答する児童の割合は目標を上回っている。 （4） <ul style="list-style-type: none"> ICTやデジタル教材を活用した授業の回数は昨年度よりも増加した。 教員の働き方改革において、時間外勤務時間を減らすことができています。 	・国語のテストの問題が質問の意図を理解するのが難しいと感じたが、そこを読み取る力をつける必要がある。 ・アンケートの結果が4月のものから最近のものになって、肯定的な数値は上がっているが、否定的な答えをしている児童の対応を重要視していかないといけない。 ・保護者同士の関係が原因で、放課後等に子ども同士のトラブルがあっても保護者同士で話ができないことがあり、学校に相談が来ることがある。 ・毛染めやピアスをしてくる児童はいたが、今はいなくなっている。しかし、高学年になるにつれておしゃれの方に気が向いてしまう児童が増えてくるので、指導の線引きが難しい。 ・小学校の校則を決めるのは難しい。中高生ならば自分たちで考えさせることもできるが、小学生はそれができないので、保護者が納得できるある程度のルールは学校が決めなければならない。そのためには十分に理由を説明できることが必要である。 ・増加傾向にある不登校児童の支援として、城東区では「城東ふらっと」という事業を行っている。
協 議 資 料		・令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ・令和7年度「運営に関する計画」中間評価	
備 考		傍聴者 0名	